



基幹農道工事による後山谷の伏せ替え工事(役場前) 11月7日撮

広報 ひがし しらかわ

No.357
H2/11

発行 東白川村・編集企画課
岐阜県加茂郡東白川村神土
〒509-13 ☎05747-8-3111
印刷 下呂印刷株式会社

人口の動き

—10月末住民登録人口から—

世帯数	908世帯
人口	3,502人
転入	6人
転出	6人
出生	3人
死亡	4人

先月と比較して1人減
昨年同月と比較して
37人減

あした 明日へ向って道をつくる…

役場前の駐車場の片隅で、長い間時代を見据えてきたモミジの古木が10月20日掘り取られ、安住の地が定まるまで仮植えされました。

通称「百年道路」と呼ばれる細総事業基幹農道神土線の工事が進んできたからです。

この道路は神土保育園附近を起点に、神田神社前を通り総合グラウンド下から後山を縦断して神付に至る総延長2250メートルの農道ですが、農業の利用以上に、現在の総合グラウンド附近に、体育館、文化会館、宿泊施設などの計画が描かれようとしており、村の人たちがスポーツや文化に親しみ、心と体のリフレッシュをすることのできる「交流ゾーン」の実現をもたらす夢道路です。



枝を払い移植先へと向うモミジ

ふるさと創生事業 いよいよ着工！

平成元年に話題となった一億円の「ふるさと創生事業」は、私たちの村では立村百年といっしょになって、記念展示会、記念祭などの多彩なイベントを開催しこの費用におよそ三千万円を費やしました。
そして、残りの七千万円は、村内の各団体や住民の皆さんから要望のあった「コミュニティ施設」の建設費として平成二年度に引き継がれることになり、村のみなさんが広く利用できるような施設としてその計画づくりを進めてきたところ、ようやく建設にかかる諸手続を終えいよいよ着工段階を迎えました。

その名も「ふるさとセンター」

このふるさとセンターの総事業費は、九千八百七十万円。その財源は、ふるさと創生費七千万円、寄附金十万円と平成二年度の地域づくり事業費（国の交付金）二千八百六十万円を当てます。
工事は、施工業者が決定している着工し、平成三年三月末完成を目指して今後急ピッチで進められますが、センターには次のような機能を持たせる予定です。

集会施設としての利用！！

一〇〇㎡の広さをもつホールと、小会議室が二つあります。集会やサークル活動に利用されている村民センターは、当初計

を四〇割も上回る満員の状態となっております、そのための新しい施設として期待されます。
なお、これまでの施設に無い機能としてビデオ映写機、ワープロなどを設置する予定です。

特産品の展示販売！！

東白川村へ寄っても、村の特産品をどこで求めればよいかわからない、という声をなくすために、村の特産品の展示販売、斡旋をします。その他木工品、手づくりの民芸品の展示販売も予定しています。

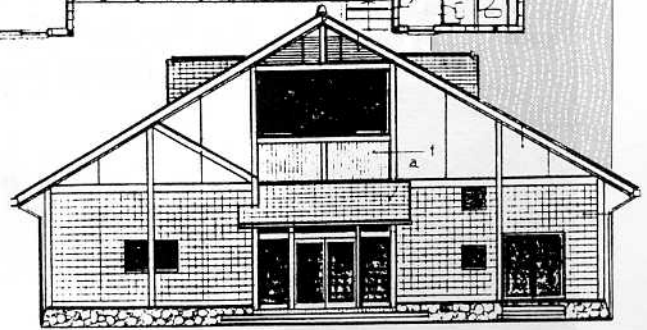
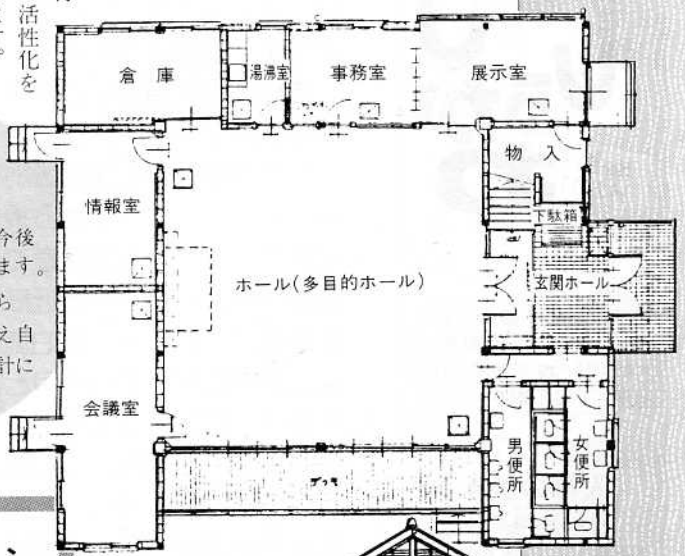
地域産業の推進活動を！！

第3セクター「村ぐるみ会社」

の事務所を置き、地域の産業の推進、活性化を図るための拠点とします。
ビデオ編集もできます！！
村内には、ビデオカメラが普及し愛好者も増えていますが、編集ができてなくて困っている人達のために、情報室にはビデオ編集機を設置する予定です。

イベントを開催します

特産品や農林産物の即売会や、村外の人も対象にした各種イベントを開催する予定です。



建設地は神土白草

ふるさとセンターは、神土平字白草地内にある旧金製材の跡地に建設します。建物は鉄骨二階建かわらぶきで延床面積は 347.5㎡。外観は今後の施設整備のモデルとなるようにイメージしています。また内装は、天井、壁などに東濃ヒノキをあしらったイキな設計になっており、若者が気軽に集え自慢出来る施設となるようこだわりを持って設計に臨みました。このセンターの利用開始は来春5月ごろになる予定です。

ふるさとセンター 建設までの経過

- 昭和六十三年九月 立村百年を記念して、新しい村おこしのアイデアを村内から募集したところ、特産品等の販売所、イベント広場、河川公園、森林公園などがほしいとの意見が多くあった。
- 昭和六十三年十二月 村おこし実行委員会、農協、森林組合、商工会から「特産品販売所等の多目的拠点施設の建設について」の建設促進陳情書が村長、議長あてに出された。

第3セクター「村ぐるみ会社」の ～ 3つの募集 ～

【株主の募集】 村内の皆さんも設立の目的に賛同いただきぜひとも1株ご協力下さるようお願いいたします。

- 1株の金額 50,000円(商法の規定により1株の金額は、50,000と定められています)
- 申し込み方法 株主になっていただける方は、平成3年3月ごろまでに、東白川村役場企画課へご連絡下さい。折り返し「株式申込証」を送付します。

【社員の募集】 村ぐるみ会社では、平成3年4月から意欲をもって働いていただける人を募集しています。今は村外に出ているが、いずれこの村に帰ってきたい人は、今がチャンスです。

- 募集人員 男子2名(高校卒業程度以上の学力を有する40歳までの人)
 - 応募期限 平成3年1月10日
- この会社は、東白川村が50%以上出資していますので安全な会社で、身分保障も完備し、将来性のある会社です。一度、東白川村役場企画課へご連絡下さい。

【商号(名称)の募集】 東白川村の会社としてイメージを高めそうな商号(名称)をお寄せ下さい。

- 記入方法 あなたが考えられた商号を、数に制限なく紙に書いて、あなたの氏名を記入し提出して下さい。
- 応募期限及び提出先 12月5日まで・東白川村役場 企画課 商号に応募した人には記念品を贈ります。(商号を採用した人には、別に記念品を贈ります。)

村おこしは引き受けた!

第三セクター設立へ...

私たちの村は、昭和六十二年に商工会、農協、森林組合、村が中心になって「村おこし事業」をすすめてきました。

この中で、新しい特産品の開発、ふるさと会、特産品振興会、木造住宅の受注拡大などの地域産業の推進を図ってきました。

一方では、植の子イベントなど、各種のイベント開催による

交流活動も盛んになってきています。このような活性化のうねりを受けて、村の振興計画の内容も活性化のための施設整備計画がよりこまれました。

このような状況の中で、村が今後「活性化対策」を中心とする村づくりを積極的に進めていくために、村や関係団体がお互いに連携をとって、新しい感覚

で、のびのびと活動できる、まったく別の組織である第三セクター(仮称)「村ぐるみ会社」を設立することにしました。第三セクターとは、市町村等と民間の共同出資によって設立された企業のことをいい、公私混合企業とも呼んでいます。

この方式は、岐阜県内にも近年多く設立され、平成二年一月現在十七になっていますが、その多くは、リゾート開発等を目的としており、本村が設立しようとしている「村おこし事業」を主目的にした第三セクターは少ないようです。

第三セクターによる株式会社は、商法に基づく会社ですから、当然営利を目的にしていますが、もう一つ大きな目的は、公共的営利要素をもっており、村の地域産業の振興をねらいとしています。

村は、この第三セクターの設立にあたって、約四〇〇株、二千万円の出資を予定しています。

- この会社で行う事業内容
- 一、東白川村ふるさと会事業
 - 二、特産品販売事業
 - 三、ふるさとイベント事業
 - 四、木造住宅受注斡旋事業
 - 五、農産物等加工販売事業
 - 六、ふるさとセンター運営事業
 - 七、宿泊体験施設の運営事業
 - 八、その他公共施設の受託管理
 - 九、村外物産販売所の開発
 - 十、特産品の開発

村ぐるみで育ててください

この会社は、とりあえず農協、森林組合、商工会、それに村から選出された十二人の発起人と、村議会議員、その他の関係者の出資で設立されますが、設立後村民の皆さんの村おこしへの気持ちを結集する意味で、できるだけ多くの人に出資していただき「村ぐるみ振興会社」として発展させたいと考えています。

したがって、利殖目的の株の取得というわけにはいきませんが、おらの村の会社の株主になってやろう...という気持ちで協力を期待しています。

また一株五万円は多すぎるといふ場合にはそれ以下でも株主になれる「持株会」という方法もあるので、設立の事務局である役場の企画課へおたずね下さい。

●平成元年一月
一億円ふるさと創生事業が話題になり、村でもふるさと創生協議会を開催、一億円の使途について協議した。

●平成元年三月
立村百年記念事業や海と山との交流事業、花の道推進事業に約三千万円当てることとし、残りの七千万円を基金として積み立て、商工会、農協、森林組合から要望のあった多目的施設の建設をすることで各方面の同意を受けた。

●平成元年六月
多目的施設の名称をとりあえず「ふるさとセンター」とすることにし、建設促進準備委員会を発足させ、三つの専門委員会、設計、機能、運営方法について協議してきた。

●平成二年四月
用地取得等について、土地収用法の事業認定を受けることにし、建設促進準備委員会で、予算に合った機能を協議してきた。

●平成二年十月
土地収用法の事業認定等、所定の手続きを終了し、九月二十六日の臨時村議会において「ふるさとセンター建設予算」の議決を受け、用地取得のあと、十一月二十一日工事に着手する。

ひとまわり大きくなった!

東白川中学校

2年間の成果を発表



全校生徒集会 (合唱を披露)

生徒自からの手で実践

十月十九日、東白川中学校において文部省・岐阜県教育委員会指定の生徒指導研究発表会が県内外から百七十人余の参観者を迎えて行われました。

「主体性を育てる生徒」を研究主題としたこの発表会では、一年生から三年生までそれぞれの教科による公開授業、全生徒による生徒集会、全体会による二年間の実践のまとめとしての研究発表と続き、着実に成果を挙げつつあるすばらしい東白川中学校の姿をアピールしました。

この研究を進めるにあたり、主題は「主体性を育てる生徒指導」を挙げ、副題として、自己を見つめ問題意識を持って解決していく生徒の育成を掲げました。

この理由として、本村中学校の生徒の姿を学習面、生活面からとらえてすばらしい面も多いが問題点として(一)受け身である(二)リーダーが少ない(三)なれあいであるの三点にしばり、それを改善することにしました。

これらの問題点は単に教師だけで一方的に指導を進めても改善向上にはつながらず、生徒自身が学校生活の中で問題意識を持ち、話し合い、実践しながら生活を高めたい、こうとする態度を育てることを鍵とし、学級経営・生徒会活動・地域連携の三つを柱に、研究実践を進め、今回その成果を発表しました。



安江富紀さん

一つ一つを確かめて…

「東中の伝統を受け継ごう」をテーマにしたこの日の生徒集会は、この二年間の取り組みのすべてを出し切ったものでした。生徒自身が学校生活の中で問題点に気付き、解決する力に身をつけてきた確かな手ごたえが発表者の言葉から伝わってきました。

「合唱が大好きな姉の姿を通して、自分たちの合唱への取り組みの甘さを知り、人を感動させる歌をうたいたいとクラス全員が思い團結することができれば、もっともっと合唱は素晴らしいものになると思う」三年生 安江富紀さん。

「三年生がスポーツ大会と休



東白川村民運動会

第八回村民運動会が十月十四日、東白川小学校運動場で開かれました。

当日は、あいにくの天候となり無情な小雨が降る中で競技が進められましたが、時折り激しく降る雨に一時は中止かと思われたものの、二十一種目のうち四種目のみ割愛して続行し、無事終了することができました。



雨にも負けずがんばりました。



いつもの力を発揮してモーレッツにダッシュ!



さあ、今日がんばるゾー!



檜茶太鼓を披露する生徒7人

「僕たちが一年生のとき体育大会での三年生の団結力は、すばらしいものがあった。集中力

育大会で優勝できたのは、次の三つのことについてクラスみんなの良い取り組みがあったから一つは、練習に集まる時間と方法についてクラスの約束をつくったこと。二つ目は、各種目のリーダーが細かい計画を立て、その計画がみんなにわかるように伝えたこと。三つ目は、種目ごとにうまくない子を特訓してきたことです。総練習では、三年生がしっかり見本となるよう本番とおりの姿勢を見せたことが刺激してか、総練習が終わってから一二年生の取り組みが変わった。これからの行事に対しても三年生が中心となってこの東中を引っばって行きたい」三年一今井恒夫さん。

合唱で地域参加

10月3日の芸能発表会では小・中7人の先生ががじか合唱団のメンバーに加わって美しいハーモニーを披露しました。生徒も頑張れば、先生も地域に入って連帯を深めようといっしょうけんめいです。



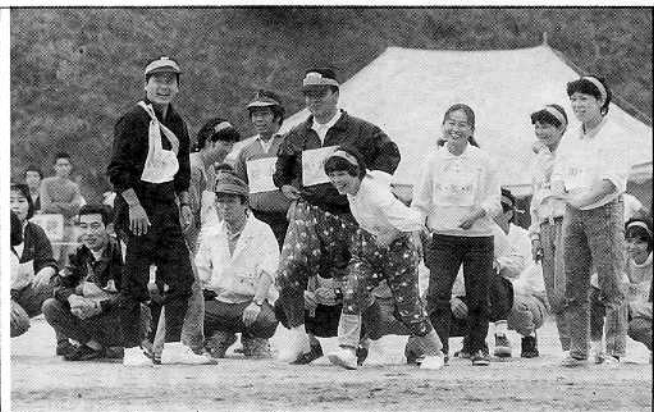
今井恒夫さん

の必要な、長縄飛びで百回を越える記録で一位。他の種目でも三年生の団結の強さを見せつけられた。結局一年生が優勝したが、個人種目で点をかせぎ団体種目ではあまり点をかせいでいなかった。もし三年生が個人種目にも全力を注いでいたとしたら結果はどうなったかわからない。スポーツ大会の優勝でも僕たちはハンディをうまく使っただけで団結力では三年生にとてもかなわなかった。こんな三年生の姿を見て影響されたのか今年の体育大会では、一つを除

いて団体種目全部を勝ち取る事ができた。やはり、三年生がまとまっていれば学校全体もまとまってくると思うようになった。三年一土井宏治さん。これらの発表からは、主体性に欠けていた一年前の弱々しさはみられません。生徒自身の力で問題意識を持ち、話し合い、実践する行動力がこうした活動を通じて身につけてきています。この課題は非常に奥深く、とうてい一年や二年の研究で成果を期待するものではありません。今回の発表会をひとつのステップとして、今後引き続き深めていくことを確認しました。



◀ ぼくにも風船チヨウダイノ



◀ まってまって、ちゃんとパンツをはいてから...



◀ 任せたゾノガッチリバトンタッチ



◀ あれ、ボールが二つどっちをけるの？

この夏のお客様 6,300人!

夏季帰省者及び 夏まつりアンケート調査結果

今年九月に組長さんを通じてご協力いただきました「夏季帰省者及び夏まつり調査」の結果がこのほどまとまりました。この調査は、村が活性化のためのイベントを計画する上で参考とするため、全戸（九百十世帯―八月末）を対象に初めての試みとして実施したもので、六一・八%に当たる五百六十三世帯から回答がありました。

では、その集計結果にスポットを当てながら、にぎわったこの夏を振り返ってみましょう。

「この夏、村外からのお客様はありましたか?」この質問には八七%の世帯が「あった」と答えており、その八割が「宿泊」による滞在型となっていました。



3000人の人出の半分が村外の人だった

そして、訪れた人の人数を聞いた質問では、驚かされることに一世帯平均七・七人、三千九百三十二人のお客様があった結果が出ていました。これは、回答のあった五百十世帯による集計ですから、さらにこれを全戸（九百十世帯）に換算してみるとこの夏に約六千三百人もの来村者があったと推定されます。

また、その来村の時期は、八月十五日前後に集中しており全体の五四・五%を占めています。しかも、その時期の滞在日数は三―五日が最も多く、「お盆はふるさとでゆっくり休暇を」という方が多いようです。ではこの休暇をみなさんは何をしておしているでしょう。

里帰りの目的で一番多かった業参りも一日あれば充分、それ

以外は特に目的もなく「のんびりくつろいでいたい」というのが一般的のようにでしたが、お家の人にとってみればそんなわけにもいきません。どう接待しようかと気をもまれたのではないのでしょうか。そこで興味のあるところが、里帰りした人たちに焦点を置いたふるさと夏まつりにいったい「何人の人が参加していたか」ということです。

お土産の一位はやっぱり白川茶

夏まつりの参加者は全戸に換算すると約千五百人、全体の二十五%の人が家の人と連れ立ってお越しいただいたようです。

催事別には、朝の行事「五介の楽市楽座」に二百五十人、昼の行事「五介の白川攻め」に二百人、夜の行事「五介の芝居小屋」に千五十人という結果からこの夏まつりが里帰りした人たちの大切な交流の場であることが再認識できたものの、参加しなかった七十五%の人をどう引き寄せるかが今後の課題のようです。

もう一つの関心事は、お土産に何を持たせるかという点ですが、一位はやっぱり白川茶、次いで野菜、米、特産品の順になっており都会に住む人たちが求めるものと身近に提供出来るものはいつの時代もふるさとの味だったようです。



1日の疲も忘れて耳を傾ける団員（第1分団詰所）

11月の新しい試み

東白川村消防団秋季訓練

秋の火災予防週間を控えた十月二十八日、東白川村消防団の秋季訓練が東白川小学校運動場で行われました。

例年ならば午前中に規律訓練を行い午後から三時までは講演といったスタイルが通例でしたが、今回は一風趣を変え別の日に実施していた予防査査と消防施設の整備を午後の行事に組み込み、しかも、講演の代わりに午前中の訓練時間を二十分余りさいて「非常時の心得」についての講義を行うなど、新しい試みが随所に取り入れられていました。

秋の火災予防週間を控えた十月二十八日、東白川村消防団の秋季訓練が東白川小学校運動場で行われました。

例年ならば午前中に規律訓練を行い午後から三時までは講演といったスタイルが通例でしたが、今回は一風趣を変え別の日に実施していた予防査査と消防施設の整備を午後の行事に組み込み、しかも、講演の代わりに午前中の訓練時間を二十分余りさいて「非常時の心得」についての講義を行うなど、新しい試みが随所に取り入れられていました。

これは、行事を一日集中型にするこによって出勤回数を抑え団員の出勤率を高めようというのがねらいでしたが、この日の出勤隊員は百八人と、団員定数（百九十人）の五六・八%という数字に止まっています。

また、訓練時間に講義を取り入れた背景には、非常時においてこれを指揮出来る団員が少なくなっているという実態が九月十六日に行った公開練習で明らかになったためです。

指揮能力は実践で身につくものですが、幸い火災の少ない本村では逆にこうした実践的な経験を積むことが出来ず、また経験があってもそれを確実に申し送れないまま退団するといった大事情から指揮者不足といった大きな問題が浮び上がってきました。

こうした事態を重く見た分団では、本団行事とは別に独自に火災時における基本的な機械器具の取扱い講習を実施しており、第一分団ではこの日の行事がすべて終了した午後四時から引き続き東消防署職員を講師に迎えて講習会を実施するなど、団員定数の削減を余儀されながらも万全な体制づくりに努めています。



「激励に駆けつけてくださった東京クラブのみなさん」

東京発！ホット通信

〇〇東白川クラブからのたより〇〇



東京都太田区
藤原福夫さん
(神戸出身)

地域間交流を狙いとした「都市と山村交流フェア」が、十月五、六、七の三日間にわたって両国の国技館で開催され、全国から参加した千町村の出展者に混じって村の特産品振興会も負けじと販売PRをしてきました。最終日の七日には、東京東白川クラブのみなさんが激励に駆けつけてくださり、その時の感想を今回お寄せいただきましたのでご紹介しましょう。

客寄せの演出があるといい

一年ほど前、池袋のサンシャインビル（六十階建）で似たようなイベントがあり、その時またまた熱海で東白川中学校のクラス会があつてその流れで同級生とともに会場へ足を運んだことがありました。

このふたつの会場は非常に対象的でした、サンシャインビルの方はふだんでも大勢の人でこつた返しており、日曜日となれば会場は押すを押すの大盛況。一方、国技館の方は下町という土地柄もあつてか一部の地元の人々を除けばあとは参加市町村関係の縁故者が多かったように見受けられました。

そこで、今回の場合、何か客の足をとめる要素がないと、せ

つかくの入場者もほとんど素通りして行つてしまいます。生きたツチノコでも展示できれば最高の客寄せになるでしょうが、それは未来の夢として、例えば朴葉餅の製造実演なんか面白いと思うのですが、（その強烈な香りがとてもステキなので……）アマゴの炭火焼きは食べれば掛け値なしにとでもおいしいのですが、欲をいえば見た目のおいしさの演出、例えば焦げ目をつけるとかすればもっと人気がでると思うのですがいかがでしょう。

手揉み茶と水道水は相性がい

お茶はやはり試飲販売がベターだと思います。ただ、機械製茶の場合、水系にもよりますが概して都会の水道水には合いません。どうしても味が落ちてしまいます。東白川から良い水を運んで試飲でおいしく飲ませても、買って帰ったお客さんが自分の家で飲んでみたら味が全く違つていたと言つてはかえ

って不評を買うことになりかねません。水道水でお茶を入れる場合の方法として汲み置きしたうわ水を利用するなどのことがしおりに書かれています。それを試飲で実行してみたらいかがでしょうか。

そこへ行くと、手揉のお茶はびっくりするほど良い味と香りがあります。しかも二度三度お湯をつぎたしても結構頑張つてくれています。これは私の体験によるところですので、何かの参考にもなればと思つています。

山のくだものが人気！

お茶の話が出たといつてはなんですが、山村の特産物として面白いと思われるものを二、三挙げてみましょう。

最近街のくだもの屋さん

の店先にもアケビが並ぶようになり、それが結構売れています。枸杞やマタタビ等を栽培しても有望だと思

文化の日

二つの行事が ドッキング！

文化の日の十一月三日、第四十三回の伝統を引き継ぐ東白川青年団の「演劇祭」と文化協会の芸能発表会が初めてドッキングし、東白川中学校体育館に約二百五十人の観衆を迎えて発表しました。

中でも、青年団のありのままの姿を脚本にした創作劇「一部追加」は、一人でも多くの仲間をつくりたいと願う団員二十人の思いを託し劇にしたもので、向こうを張つて入団を拒む若者と

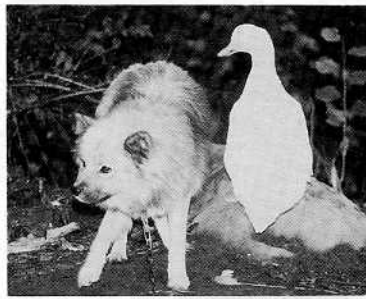


観衆は一人として席を立つことなく見入っていた

それを取り巻く団員の心情をとらえながら、現在抱えている青年団の課題を一人一役をこなし発表しました。

愛情

アヒルと犬こんなに仲が良かったのかな？



見慣れないカメラに照れるガーコとジョン

ベルリンの壁じゃないけれど、「私たちには何の壁もありません」

と仲良しぶりを見せつけているのは、平の石神トミエさん宅で飼っているガーコちゃんとジョン君です。
みそ汁をかけたご飯に目が無いガーコは、ときおりジョンの食事に割り込んでしまうものの、それを知っているジョンは怒りもしないで腹一杯食べさせてやります。その反面、ガーコは口ばしを使ってジョンの体をマッサージしてあげるなど、その仲良しぶりには頭が下がります。

ビックリ

ワラの中に巣を作った 風変りなタカブ



タカブの群れに巣全体を写せず残念

「エッ！ワラ小屋にタカブ（地蜂）の巣？」耳を疑う思いで神付の安江優さん宅へ出かけると、確かに数十匹の通い蜂がブンブンと音をたててワラ小屋の二階へと通っていました。「通い蜂は刺さないから」と奥さんに案内されながらもおそろのおそろのぞいてみると、一番奥の薄暗いところに束ねてあったワラから、少し頭を出して巣が見え、それを覆うようにタカブが群がっていました。
安江さんもこんなことは初めてと風変りなタカブにビックリ!!

情熱

五加地区の名物行事となつた「大物マス釣り大会」



前日昼からクラブ員ら約15人が出て放流

五加清流クラブ主催による大物マス釣り大会が十月二十日、今年も多くの釣りファンの期待に応え八十人の参加者を迎えて五加神矢橋から林測までの区間で開かれました。
「五加を少しでも多くの人に知ってもらいたい」。そんな若い人たちの思いが形となったこの大会も今年で四年目を迎え、すっかり五加地区の名物行事として定着しようとしています。
行政の手を借りず全てをクラブ

山づくり

五時間で四千二百本！ 「村民一日枝打ち奉仕」



唯一の女性参加者は今井豊子さん

秋晴れとなった十月十六日、第二回の「村民一日枝打ち奉仕」が久須見村有林で行われ、参加した六十人はナタとノコギリを腰にさげ弁当を背負って午前九時、目的地へ向いました。
歩くことおよそ十分、到着した現場には直径十センチほどに成長した十二年生から十四年生のヒノキがすくすくと育っており、作業開始後、午後三時までに三割約四千二百本の枝打ちを完了しました。
これで一回目の枝打ちを残すところは八割となりました。

戸籍の窓

十月 敬称略
ブ員二十人の手でこなし切ってきたこの大会が、特別な呼び掛けもせず定着した人気の秘密は、平均体長五十センチという大物への徹底したこだわりと、さわやかな若者らの情熱が釣り人の心をとらえたのでしよう。



誕生おめでとう
ございます

ん ば い け



いつまでも
おしあわせに

(神付) 安江 清造 (一輝)
恒子 (三男)
(神付) 安江 宏 央
眞理 (二女)
(平) 今井 正英 香保理 (長女)
美鈴

齊田 昌一 (岐阜市)
安江 亜子 (上親田)
濱田洋一郎 (愛知県長久手)
今井 睦 (柏本)



おくやみ
申しあげます

安江 丑松 77歳 (黒淵)

建設

神土西工区二つの土地改良 碑で完成を祝う



工区内で掘り出した岩を石碑に

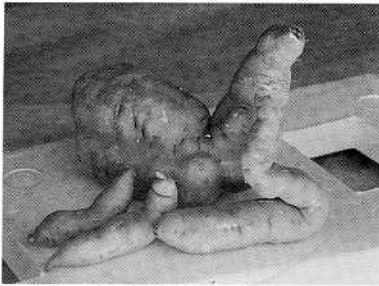
視察者が訪れると村内めぐりは、決って西洞、中谷経由のコースを通ります。
県営畑総事業による神土西工

区のは場整備（四十・七ヶ）と基幹農道（約二・五）工事が完了し村を代表する顔となったからです。

その完成を祝う土地改良碑の除幕式が九月二十二日に中谷地区の森ノ上で、西洞地区は十月二十八日に西洞センターでそれぞれ行われ、長い間の労をねぎらって竣工を祝いました。

あいきょう

モグラがひねった サツマイモ



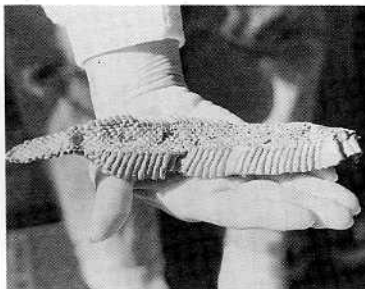
あなたは何と連想されますか

「ねえ、ねえお父さん、どこ

か連れてってよー」とおねだりしているオットセイの親子!!
といってもこれは、一株になっていた四本のいびつなサツマイモを、ウーンと首をかしげては並べ替えているうちに、浮かんだ情景です。
柏本の交吉泰郎さん宅で採れたこのサツマイモ、「もぐらの仕わざじゃないだろうか」と推測する交吉さんもこんなのはじめてのことと首をかしげるばかり。

珍品

またまた出た! ツチノコ もどき今度は何かな?



薄い部分にも巣がいっぱい!

「エッ!これが蜂の巣」「へビの皮かと思った」「でも良く

見ればツチノコに似ているね」
だれの目にもそう写ったこの蜂の巣は、神付の田尻貢さん宅に勤めている佐見の田口達彦さんから届けられたもので、アシナガバチより黄色くて小さいササガレの巣だろうという話。それにしても、また器用に作ったものです。蜂の文化展にでも出品するつもりだったのでしようか? こうしたツチノコもどきが最近多くなったのは、晴れて市民権を与えられたあかしです。

仕掛人

林業の村でしか できない体験を...



山は笑顔をもたらしてくれます

あの夏まつり仕掛人の一員である東白川林業クラブ(栗本重

秋会長)が、「林業体験学習」なるものを企画した。
「うちのクラブは動くのは遅いがアイデアはどえらいものが出る」と自負する会長の言葉のとおり、この学習に参加した東白川中学校二年生四十二人の山仕事に対する考え方を約二時間余りで一変させ、おまけに間伐の意義まで教えてしまった。
「林業の一番おもしろいことを体験させれば興味をもつ!」

安江 朝男 62歳(大明神)
安江志げ子 86歳(黒瀨)
渡邊 尚登 35歳(平)

■善意の寄付 敬称略

【社会福祉協議会へ】

現金三千元—安江多重(黒瀨)

現金五万円—安江文男(黒瀨)

現金八万八千五百六十六円—東白川村青年団体連絡協議会

(ふるさと夏まつり)

【社会福祉施設指定寄付】

現金十万円—今井哲(宮代)

【役場庁内事務機器指定】

現金二十万円—安江公平(平)

【越原地域集会場へ】

湯飲み茶わん五十六個—婦人会越原支部

【東白川中学校へ】

飲み茶ほか二十話—東白川村茶業振興会

【東白川小学校へ】

産経新聞写真真ニュース一年分

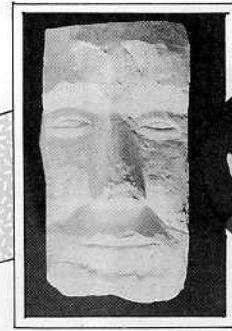
—安江忠昭(陰地)

【五加保育園へ】

山砂二、車一台分—安江庚巳(柏本)

その体験とは直径二十センチほどのヒノキの間伐材をのこぎりを使ってグループ単位で二本づつ伐倒させ造材、搬出までをやらせたのが大当たりし、「初めての貴重な体験に感動しました」と感想がどっさり寄せられていた。

わたしの作品



▲白彫石（自分の顔）
東白川中学校3年 安江寿樹さん（下親田）



おしらせ



無事故で楽しい 狩猟を！

11月15日～2月15日

十五日は、ハンターのみなさんにとって待望の狩猟解禁日です。しかし、一つ間違えば人の命をも奪ってしまう恐ろしい銃。幸い村では人身事故もなく、狩猟マナーも正しく守られています。が、ちょっとした油断が幸せな家庭を破壊してしまいます。

- ◇無事故で楽しい狩猟を行うためにも、もう一度銃の取り扱いを確認しておきましょう。
- ◇銃は使用前に必ず点検をする。
- ◇実包装てんの有無を確認し、発射直前まで装てんしない。
- ◇発射するときは、常に心を冷静に保ち、射程内や周囲の安全を確認する。
- ◇猟獲に自身のないときは発砲しない。
- ◇発射の必要がなくなったらすぐに脱砲する習慣をつける。
- ◇猟友の位置を確かめておく。

◇狩猟禁止の場所では、絶対に狩猟しない。

カスミ網密猟3ない 運動推進中！

- 「山をトヤ場に使用せない
- 「保護鳥を捕らない
- 「密猟鳥を食べない

人権相談所が 開設されます

12月13日

岐阜地方法務局美濃加茂支局と人権擁護委員協議会では、十二月四日からの人権週間中に、次のとおり人権相談所を開設します。

当日は、法務局の係官と村の人権擁護委員中島葵一さん（西洞）が担当します。
ご相談の内容は、土地、建物相続をめぐる問題、その他日常生活でお困りの法律問題など何んでも結構です。お気軽にお出かけください。

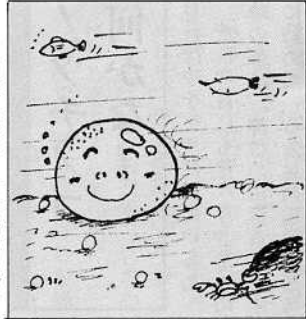
ふるさとのおとぎば 22

☆ かあら

「かあら」と書いただけでは何のことか分かりません。ある人は「かわら（瓦）」のなまった語というでしょうし、また、ある人は「かわら（川原）」の変化したものというでしょう。

ちょっとしたアクセントの違いはありますが、かな文字に書いたら「かあら」は「瓦」にもなれば、「川原」にもなります。

ここでは後者の「川原」を取り上げました。「かあら」は「かわら」の「わ」の子音が省略されて母音の「あ」が残ったものでしょう。こういう変化の例は他の語にも見られること



覆面作者紹介・文（田口博さん・前教育長） 絵（安江綾子さん・役場総務課）

です。

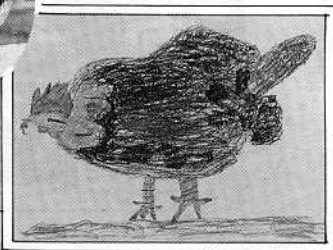
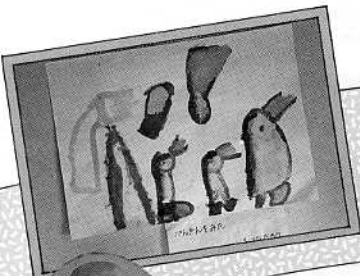
「昔や川の真ん中のかあらに草やなんぞ生えなんだけど、今草のことおいて木や立つとる」昔の白川は、名前のとおり水がきれいで、川の真ん中にできた中洲には草など生えていなく丸っこい川原の石が真っ白に輝いて見えました。

こういう見事な中洲を形成しているのは、激しい流れのため、相互にぶつかりあって角がつぶれ、丸くなった「かあらいし」（川原石）です。「かあらいし」は、秋、大根や蕪を刻んで「きりづけ（切漬）」を漬けるときの重しとして欠かすことのできないものでした。形の整ったものを選んで、桶の落とし蓋を押さえました。また、材料の上に直接載せることもありました。

現在、川から拾ってきた石が「つけものいし（漬物石）」として使えないという訳ではありませんが、昔と比べるとかなり汚くなっていることは事実です。大雨の後など、岸や「かあら」に流れ着いた木片などを「かわごみ」といい、昔は、これを拾い集めて燃料にしました。今はそういう事ありませんから川は荒れ放題です。水質の悪化に加えて周辺の状況変化も手伝って、川は病み、苦しんでいます。

におかあさんとお買物
五加保育園
いまいきよみちゃん(5歳一宮代)

にわとり
東白川小学校1年生
▼今井亮輔さん(下野)



▲東山動物園でペンギンを見た
五加保育園
いまいけんたろうくん
(5歳一大沢)

◀石灯ろう
東白川小学校5年生
安江朋希さん(上親田)

今月の図書



花ものがたり 高橋 治著
香りを頼って歩いていけば、いつかは花に出会うはず。いまは闇の中でも……
恋に仕事につまずきながらも、美しくりりしく生きる女と男の八つの短編小説です。秋の夜長是非読んでください。

溢れる春 津島祐子著
生きることの心地良さに気づく時……中年独身女性「カズミ」につきまとう死の幻想の数々。
主人公「カズミ」が生きる意欲をとり戻し、家族のためにつくすまでの心の揺れを描く長編小説です。



● 東白川村教育委員会では、今年度の地域講演会を、健全でやわらかな地域づくりをテーマに村内三会場で次のように開催します。ぜひお誘い合せてご聴講ください。
〔講師〕日比野元美先生(可茂教育事務所)
● 演題『我が家に心のともしびを』

地域講演会 演題は「我が家に心のともしびを」

〔日時〕十二月十三日(木)午前十時から午後三時まで。
〔場所〕村民センター(経営相談室)

を」
〔期日・会場〕
● 神土地域―十一月二十日 村民センター
● 越原地域―十一月二十二日 越原センター
● 五加地域―十一月二十七日 五加センター
〔開演時間〕
いずれも午後七時三十分

十一月一日から「国の進学ローン」を扱っています。
ご希望の方はお早目に！
国民金融公庫多治見支店
「進学ローン」係 ☎〇五七二―二二一六三四一まで。



逸品を手にも目を細める古田さん

十一月は文化の月。村民センターでは、二日三日の両日にわたって「文化展」が開かれ、家族連れなどで訪れた人たちが約五百人は趣味の作品、小中学校の美術作品など八つのコーナーに展示された四百点余りの作品に見入っていました。
中でも、村内に広く出品を呼びかけた文化財審議会委員のみなさんによる「私の一品、我が家の逸品展」には、八十七人の人たちから百二十点もの品々が寄せられていました。その出品



オス鹿の角

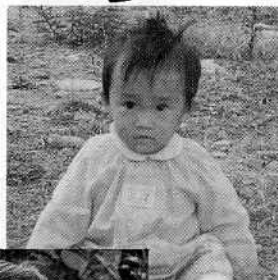
者の一人、宮代の古田兼市さん(77)の思い出の品を今回の一品として紹介しましょう。
地域でも手先が器用で知られる古田さんは、暇をみては山や川原を歩き、掘り起こされたままになっている古木の根や切り捨てられた枝、川岸に転っている木片などを見かけると一度手に取ってみては四方八方から眺め、利用出来そうなものを持ち帰って少し手を加えては花台や置物などを趣味で作っておられます。
なんの変哲もないものが古田さんの手によってよみがえった品々はこれまでに百点余りもあり、その中の逸品三点(写真)が展示されていました。
約三十年ほど前、白川町中川地区の工事現場でみつけたというオス鹿の角。「愛犬のコブ」と名付けた古木の根株を利用した置物。河川清掃作業をしていて焼却中のゴミの中から拾い出したモロンドの根の「座籠」なる置物。どれも自然のままの形を生かしたとっておきの作品です。中でも思い出深い一品と手にされたものは、モッコで土砂を運搬した昭和三十四年当時の思いを秘める鹿の角と、その年に大沢横引地内の岩盤切り取り作業中みつけた直径二センチほどの受け台のセットでした。

わが家のスター

満1歳

りさ
安江理沙ちゃん

◀ (隆明さん・優子さん
二女=栢山)



安江なつみちゃん

▲ (政辰さん・英子さん
二女=平)



有田恭子ちゃん



小池 昂くん

▲ (毅さん・万智子さん
長男=大沢)



安江南実ちゃん

▶ (政春さん・芳美さん
三女=日向)

▶ (尚樹さん・
志実さん
長女=下親田)

● 短歌

広報文芸

敬老の日ささやかに卵贈りたる母亡くてもわれもその齢となる

十六夜の白き月影わが庭隅なく照らす三更どきを

こほろぎの鳴くとし見れば座ぶとんのかどに隠れつ秋は身近に

夜の雨を吸ひて柔らかに畑の土銀軽やかに畝立て行けり

夏の日に往きし道なり今日来れば芒の穂波白くそよげり

何の木か紅いにはや色づきて鈴鹿連山彼方に澄めり

村人のソフト大会に出てざれば我は空しく双眼鏡を把る

山住みの明け放ちたる敷居越え蜥蜴入り米ぬ炎暑に倦し

夏休み終りし今日を部屋隅に一息つきてテレビ静もる

見はるかす平野は稲の色づきて伊吹山頂風肌寒し

山頂で画を描く息子寒さにも耐えてひたすら座りつづくる

文通の小女忘れず敬老の日吾に届きぬ白きカトレヤ

休暇明け東京駅の百分の一ほどのわが駅子は発ち行きし

テレビなくラジオも無き頃台風は雲の動きで予想したりき

一夜にて涼しき増せる秋の朝夫がくれたるパジャマ着て臥す(病院にて)

子も孫も皆帰行き老二人静もる庭に法師蟬鳴く

蒟蒻裂けてのぞくつぶら実黒々と夏たけし日の光をはじく

あなたの作品をお寄せください。初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します。●隔数月の二十日までに神土伊藤重雄宛に出して下さい。

三戸 きり

小池 きぬゑ

早瀬 久子

安江 香

安江 節子

田口 一枝

安江 守平

今井 かな

安江 澄

安江 幸

安江 すみよ

安江 武子

小池 弘子

早瀬 勇造

安江 とくよ

伊藤 美枝

伊藤 重雄

立村百年記念植樹

梅の話

先月号で梅

干しの話を書

き、自家用梅

干しの年代物

造りに挑戦さ

れては……と

呼びかけたら

さっそく平の

神戸正弥さん

から文字どお

り取っでおき

の逸品が届け

られた(右下

写真)▼何と

この梅干し!

つくってから

九十年という

超年代物、故

人となられた

